

日本労働年鑑 第50集 1980年版
The Labour Year Book of Japan 1980

第一部 労働者状態

IV 合理化の現状と労働災害・職業病

3 労働災害・職業病

2 職業病

産業別種類別発生状況

業務上疾病にかんする労働省統計は、七七年までしか発表されていない。そのかぎりでは若干の特徴をみておこう(第62表)。まず発生件数は、景気停滞下でも増大傾向にあり、七五年二万四九五三件、七六年二万五七九六件、七七年二万七二五六件と推移している。七七年の発生件数を産業別にみると、製造業一万一二〇九件が断然多く、ついで建設業五〇九八件、交通運輸業三一七九件となっている。

つぎに、疾病の種類別にみると、負傷に起因する疾病一万九〇一件と断然多く、ついで重激業務による運動器の疾病三九五四件、熱傷・凍傷三八三七件、高熱・ガス・光線等による眼の疾病二二四五件、じん肺症二〇三九件となっている。また、負傷に起因する疾病、重激業務による運動器の疾病などのなかで、近年、いちじるしく問題化している腰痛の多いことが目をひく。七七年一万〇二一三件と、ついに一万の大台にのった。しかも産業を問わず、いずれの産業にもまたがって発生しているのが特徴である。

職業病と疲労・健康障害の増大

最近では、産業、職業を問わず、精神・神経疲労をふくむ身体各部に多様な症状を現わす疾病、たとえば過労性の腰痛、頸肩腕症候群、自律神経失調症などが発生している。また振動による神経炎なども、たとえば林業の白ろう病のように問題化している。さらに、じん肺症の増大など、全体として、いわゆる「合理化」病がひろがっている。その広大なすそ野を形成しているものとしての、疲労・健康障害の増大、慢性化傾向に改めて留意すべきであろう。近年、そうした点に鑑み、各種組合調査も盛んにおこなわれている。

また労災、職業病の保障、認定、救済闘争も、しだいに活発化の気運にある。制度要求の一環でもあるが、いずれにしても、やむにやまれぬ闘争として、その前途が注目される。

【参考資料】(1)労働省『昭和五三年労働経済の分析』、(2)『総評調査月報』『月刊ゼンセン』、『全通新聞』、(3)『賃金と社会保障』、『月刊いのち』、『経済』、『月刊労働組合』、『労政時報』

日本労働年鑑 第50集 1980年版

発行 1979年11月10日

編著 法政大学大原社会問題研究所

発行所 労働旬報社

■ ←前のページ 日本労働年鑑 1980年版(第50集)【目次】 次のページ→ ■
日本労働年鑑【総合案内】

法政大学大原社会問題研究所(<http://oisr.org>)
